



この程大野市側から着工した国道158号線整備(下丁地係)

9月定例市議会

15議案を可決・認定・同意

市会案 4 件も可決

第 239 回定例市議会は9月16日招集され、会期を26日までの11日間と定め、理事者から提出された議案15件について審議しました。その結果「昭和63年度大野市一般会計補正予算案」「昭和62年度大野市水道事業会計決算認定について」「教育委員会委員の任命について」など全議案を可決・認定・同意しました。また、議員提案による「義務教育費国庫負担制度の堅持に関する意見書」など4件も可決。市民の皆さんから出された請願・陳情は別掲のとおり決めました。

審 議 日 程

16日	本会議（会期の決定、議案上程、提案理由の説明）
17日	休 会
18日	休 会
19日	本会議（一般質問）
20日	本会議（一般質問、請願・陳情上程、各案件委員会付託）
21日	委員会（産業経済・建設）
22日	委員会（教育民生・総務）
23日	休 会
24日	休 会
25日	休 会
26日	本会議（各委員長報告 質疑・討論・採決、追加議案の上程）

市政をきく 一般質問から

財政運営について

問 当市は市税の伸びがゼロという大変厳しい財政状況下にある。

この厳しい状況にどう対応するかによって5年後、10年後に大きな違いが生ずると思う。そのために

は一律カット的な予算編成ではなく、削るものは徹底的に削り、浮いた財源を伸ばすべきものに充てるという積極的な姿勢が必要と思うが、どうか。

答 基幹産業等の低迷から、当初予算では税の伸び率をゼロにした。

その後、引き続き推移を見守っているが、今後も厳しい税収入になるのではないかと危惧している。

しかし、あまり委縮するといろいろと障害が生ずるので、立ち遅れた事業のうち特に優先度の高いものについては積極的に取り組みたい。財政運営には「最少の経費で最大の効果を上げる」という考え方を基に、新しい時代にふさわしい財政構造と財政運営を確立して健全財政に努めたい。

リゾート開発について

問 リゾート開発は官民一体となって事業を成し遂げていくもので

行政としてやらなければならないものは速やかに行ったうえで、できる限り民間の協力を得ることが根源だと思う。市長のリゾート法の解釈について伺いたい。

また、重点整備地域のうち市街地については、亀山周辺を最も重要な地点としているものの、理解に苦しむことが多い。基本理念についても伺いたい。

答 リゾート法は優れた自然条件の中で滞在しながら、スポーツや教養文化活動等ができるよう、民間活力を導入しながら地域の整備を進めて、福祉の向上と均衡ある国土、国民経済の発展に寄与するものである。単に都会から人を呼ぶことでもなく、多くの施設群を造ることでもないと考える。

いかに地域経済の活性化を図るか、どのような生活空間を築くかが重要問題である。当市の特性と地域の資源を最大限に活用した整備、新たな産業の創出、地域経済と地域文化の向上に資したい。

市会案第八号	市会案第七号	市会案第六号	市会案第五号	第五十四号	第五十三号	第五十二号	第五十一号	第五十号	第四十九号	第四十八号	第四十七号	第四十六号	第四十五号	第四十四号
旧軍人軍属恩給欠格者救済に関する意見書 小学校社会科教科書に森林・林業に関する記述を充実することについての意見書	大野市一般職の職員の勤務時間に関する条例の一部を改正する条例案	大野市母子家庭等医療費の助成に関する条例の一部を改正する条例案	大野市簡易水道等供給条例及び大野市簡易水道等使用料金特別条例の一部を改正する条例案	大野市計画事業南部第二土地区画整理事業施行条例の一部を改正する条例案	大野市計画事業北部土地区画整理事業施行条例を廃止する条例案	大野市道路路線の認定及び廃止について昭和六十二年大野市水道事業会計決算認定について	教育委員会委員の任命について	教育委員会委員の任命について	固定資産評価審査委員会委員の選任について	人事院勧告の完全実施を求める意見書	義務教育費国庫負担制度の堅持に関する意見書	旧大野町有給吏員退隠料、退職給与金、死亡給与金、遺族扶助料支給条例の定めるところによる受給者に対する退隠料等支給条例の一部を改正する条例案	大野市一般職の職員の勤務時間に関する条例の一部を改正する条例案	補正予算(第二号)案
原案可決	原案可決	原案可決	原案可決	原案可決	原案可決	認定	同意	同意	同意	原案可決	原案可決	原案可決	原案可決	原案可決

生産環境への 先行投資を

問 町づくりのポイントは地元経済基盤の整備が肝要であり、そのためにまず市街地整備を図らねばならない。

税収の伸びが見込めないことや年々経費が重んでいく中で、市外から金を流入させることに傾注し今後しばらくは維持費のかかる投資は控えるべきであると思うが、どうか。

答 今年は新有終会館や市民会館消防庁舎等の箱物の新・改築が目立っているが、消防庁舎については十有年来の宿願であるし、新有終会館建設は他市と比べて遅れている施設面の整備である。

市民会館の改修については多額の経費をかけることに批判もあるだろうが、市民文化の向上に必要である。

今後は山林関係、農業関係、織



魅力ある環境整備が求められる市街地(五番通り)

維関係等の生産環境への整備にも十分配慮したい。

病院誘致問題の 現状と可能性について

問 病院誘致問題については、9月議会までに目途をつけたいということであったが、現在どのように好転しているのか。また、済生会本部には打診したのか。現状と可能性について聞きたい。

答 8月10日の議員全員協議会で正式に済生会病院を誘致したいと表明し、議会の理解も得た。

その後、済生会病院を訪れてこれまでの経過と考え方について説明をした。

現在、議会側3人、行政側2人、市医師会側4人から成る小委員会を設けて、病院の名称や建設場所、診療科目、ベット数等について積極的に話し合いを進めている。

診療科目については、原則として大野にない救命救急センターをはじめ理学診療科、脳神経外科、形成外科、放射線科、皮膚科、泌尿器科のほかに内科、外科、小児科等を含めてはどうかと検討中である。

現在小委員会できろいろと話合いを進めており、ある程度の方

向が出たところで福井県済生会病院と打ち合わせをすることになるので今のところ済生会本部までは出向いていない。

済生会病院の基本的な精神から考えると相当高度な病院建設が期待できるものと思う。

公有地の処分について

問 現市長になってから、これまで代替用地として苦勞して取得した公有地がかなり処分されているようであるが、財政的な面からなのか。また、処分する場合は更地ではなくて、既に貸与している土地で建物が建っているような土地から処分すべきであると思うが、どうか。

答 公益上からも財産上からも保有しておくことに格別意義のない普通財産を所有し、維持・保存することは費用を要するのでできるだけ処分し、その代金を行政執行に要する財源に充足するのが適当であると考えられている。

賃貸地についても以前は希望者に処分していたが、今後は十分検討して対処したい。

議案番号	件名	結果
第四十一号	昭和六十三年大野市一般会計補正予算(第二号)案	原案可決
第四十二号	昭和六十三年大野市国民健康保険事業特別会計補正予算(第一号)案	原案可決
第四十三号	昭和六十三年大野市簡易水道事業特別会計	原案可決

議案等の審議結果

雇用対策について

問 県外では新規学卒者の労働力を確保するために、市単独で若者定着事業を進めたり、地元出身者のUターンを促進したり、さまざまな方法で若者を引き止めることに努力しているが、当市の若年労働力の確保策について伺いたい。

答 来春地元高校の卒業予定者のうち就職を希望している者は232名で、このうち市内就職希望者はわずか47名である。

一方、求人数は284名になっており、若年労働力が大幅に不足しているが、これは地元企業の死活問題でもある。

この解決のために労務対策協議会や雇用対策協議会で両高校の就職担当の先生を交えて種々検討している。今年は特に就職希望者の工場見学をはじめ、新たに保護者を対象に就職懇談会を開いている。

また、求人情報を印刷し、両校の就職希望者とその保護者に配布している。

さらに、商工会議所に委託して当市出身の県外在住者に対して、Uターンの希望も含めたアンケート調査を実施している。



今年当市に進出し、この程完成した(株)山本大野工場



市街地整備の最重点地域である亀山周辺

市街地整備基本計画について

問 現在、市街地整備基本計画策定作業が進められているが、この策定委員会では本年中に整備プログラムを決め、来年度以降事業に着手する予定をしている。

整備プログラムは関係者のコンセンサスを得ているのか。

この計画の中に克雪対策や都市排水対策が盛り込まれているのか。

また、亀山周辺整備には大高の移転問題が大きくかかわってくるが、移転先の用地は決まったのか。

答 市街地整備基本計画策定は61年度に着手した。計画の概要は「快適環境都市」「風土の中の観光都市」「水と歴史の文化都市」「地域に生きる人間都市」の4つを都市づくりの基本方針に、昭和80年を整備目標年次に定めている。

本年度はこれに基づいた都市基盤施設の整備プログラムを編成することになっている。これが完成してから関係者のコンセンサスを得るように努めたい。

克雪対策では流雪溝の整備が、都市排水については市街地河川の水質汚濁が進行しているため、下水道施設の整備を提案している。

大高移転については、庁内関係課長から成るプロジェクトチームを設けて候補地の調査を行っていたが、この程報告書がまとまったところである。

今後、この報告書をもとに関係者の意見を聞きながら県との折衝に入りたい。

農業後継者対策事業について

問 農業後継者のお嫁さん探しのため、当市は本年度からユニークな方策を打ち出したが、その成果はどうか。また毎年大阪方面の女性を招いて交歓会が行われているが、実効があるのか。

答 相談員の人選に時間がかかったが、6月から活動をしてもらっている。熱心に取り組んでいただいているが、まだ婚約が成立したものは1件もない。男性よりも女性からの断わりが多いようである。

非常にむずかしい問題であるが今後も根気強く進めたい。

農業後継者ふれあい事業は毎年行っている結果、現在3組ぐらいが交際しているようであるが、大野の男性はやや積極性に欠けるので、女性にアタックするよう呼び掛けている。

水資源対策中・長期計画案と 上・下水道の具体化について

問 この程まとめた水資源の中・長期需給計画によると、「節水には限界があり、上水道整備が必要だ」となっているが、上水道建設を急ぐよりも水源涵養対策と節水、および汚染防止対策を確立し、新しい秩序を作ることが必要と思うがどうか。

答 水資源対策計画については、今日河川水の発電利用、地下水涵養源の減少、生活様式の変化等、さまざまな要因によって使用量が増大し、水資源が不足しているのので、今後どのように取り組まなければならないかというのが計画の目的である。

水源別・用途別に現状を分析し将来の需要量予測を行うとともに保全・有効利用・開発の3点から総合的に水不足に対する対策をまとめたものであり、決して地下水無用の論をしていない。

上水道についてはさらに調査を進め、今後どうあるべきかを検討したい。



避けて通れない水問題

国際化について

問 先般、市長は韓国を訪問したが、その成果を聞きたい。



当初の予想をはるかに上回った「日中友好少年の翼」事業



また、今年は大野青年会議所が主催して「日中友好少年の翼」を実施したところ、10万円もの自己負担金にもかかわらず希望者が多く、当初約40人の予定が100人になった。これは青少年たちが国際化社会の中で、自分の目で外国を見、外国から日本を眺めたいという希望を持っているからであり、有効な事業であったと思う。

この観点に立って来年度からこのような事業を市で行う考えはないか。

答 この度の韓国視察は大野織物工業協同組合が企画したもので、私も一員として参加した。

韓国は現在目覚ましい発展を遂げており、全般的に活気があふれているが、反面、経済力の増強に伴って労働問題や貿易摩擦、ウォン高等の悪条件も派生している。

視察メンバーは若い後継者が中心であり、韓国の国情、国民性、産業構造、技術水準、流通機構、市場価格等幅広く勉強できたことは収穫であった。今後、織物組合の事業に反映されるものと期待している。

少年の翼については、近日中に参加した生徒から学習体験記録が提出されるので、その成果を踏まえて検討したい。

スポーツ振興への 市長の理解度は

問 最近のスポーツイベントは、ビルの並ぶ都会よりも山並みや緑の多い田園都市の方が人気が高い。

スポーツイベント事業を継続・発展させていくために応分の助成措置が必要と思う。

特に最近野球とサッカー用に別々のグラウンドが造成されているところが多く、市内の各協会は施設の充実を要望している。

市長は総合公園構想の中で考えたいということであるが、完成までには相当の日時がかかるので、早急に野外スポーツグラウンドの整備が必要と思うが、どうか。

答 スポーツ専用施設としては市民グラウンド、真名川市民グラウンド、海洋センター、勤労者体育センターなどがあるが、確かに不備な点も見受けられる。これを補うために学校の体育館やグラウンド等を開放している。

総合体育館や奥越総合公園は広域圏組合の事業であるが、この中で十分配慮するとともに、早期に着工できるように全力を挙げたい。

第4回水シンポの総括と 今後の生かし方について

問 去る8月11・12日の水環境保全シンポジウムは、市当局の苦勞と市民団体の協力によって盛大に開催され、参加者から大変好評を得た。

しかし一方、このシンポジウムの「水環境問題に対して行政と住民が1つになって取り組む」という精神が果たしてどこまで浸透したかが気懸かりであるし、四千余万円を投じてお祭りが終わったというのでは寂しいことである。「水と共棲する社会」という大会宣言を今後どのように進めるのか。

答 水質保^{せい}全は行政だけではなく住民1人ひとりが日常の身近な実践活動を通じて取り組む必要があるので、機会あるごとに市民の協力を得ながら、当市にふさわしいよりよい環境の保全に努めたい。

「ふるさと自然の家」の 設備充実について

問 今年3月に越美北線勝原駅近くに、県産木を使った立派な「ふるさと自然の家」が完成したが、嘱託の公民館長が1人しか配置さ



設備の充実が望まれる
「ふるさと自然の家」



老朽化が進むし尿処理施設



れておらず、施設の安全面や運営面に問題がある。

特に利用者の多い観光シーズンなどには臨時職員を配置してはどうか。2階の多目的室にビデオ装置を設置して、当市の観光を紹介できるようにしたらどうか。

答 去る7月から、「ふるさと自然の家」に従来の五箇公民館が移転し、非常勤嘱託館長を1名配属している。

本来の公民館活動等のため施設を離れることが多いので、施設の利用に支障を来す場合がある。

今後施設の有効利用を図るために、地域の各種団体や住民と対策について十分協議したい。

視聴覚備品も少ないので機器の充実に努めたい。

し尿処理場の現状と 問題点について

問 し尿の汲み取りを依頼してもなかなか来てくれないとの苦情を

人 事 案 件

3氏の任命・選任に同意

教育委員会の任命

・土屋 幸男（51歳）
（阿難祖領家13-23）

・巖 教也（65歳）
（伏石18-57）

固定資産評価審査委員会委員
の選任

・合掌 郁雄（58歳）
（佐開11甲-7）

よく耳にするが、業者に問題があるのか。し尿処理施設能力が対応しきれないのか。

答 現在の1日の処理能力は54キロリットルであり、一時的に汲み取りの要望が集中することもあるが、処理については万全を期している。

特に今年は市民会館や有終会館の改築工事により、また六、七月にかけて和泉村からの搬入が重なり、一部影響があったようだ。

また、夏場にはハエ等の発生防止のために少量でも汲み取りの希望が多かったようで、収集が遅れたこともあるので、今後は市民の協力も願いたい。

大野高校の移転と大野工業高校を含めた学科・定員の見直しについて

問 大野高校と大野工業高校の位置付けをどのように考えているのか。定員の見直しが必要な理由は何なのか。学科の見直しは両校ともに必要か。

答 県立校のことであるので、県教委ならびに学校自身が決めることである。地域の要望ということで理解願いたい。まず普通科の定員枠が極めて少ないため、不本意な科への入学を強いられている現状である。

さらに、女子の通学を余儀なくされているという2点が大きな問題である。

県平均の普通科定員率は63%であるのに対して当市は48%と極めて低いので、普通科指向が多い現状から考慮すると、定員の改善が必要である。

一方、職業系の場合、当市は女子の定員が大変少ないので、これの見直しと、さらに時代の進展に対応できる情報科や生活科学科等の選定について、県へ要望したい。

奥越4校の見直しを進める中で特に大野市が遅れているのは、大野高校の移転問題とのからみがあるので、この問題の処理について努力したい。

消費税について

問 市長は地方自治体の長として議会に対し、消費税反対の意見書提出についてを要請する意思はないか。

答 消費税については、現在国会において審議中である。自治体の長としては、この方針に従わなければならないので議会に対しての要請は考えていない。

請願・陳情審議結果

番 号	件 名	提 出 者	結 果
請願5号	市道編入と改良舗装について	下麻生島区長 竹田 強 外2名	採 択
請願6号	本町集会場（仮称）新設について	本町1上区々長 亀井 信之 外10名	継続審査
請願7号	側溝の改良について	陽明町一丁目一区々長 高畑 義正 外3名	採 択
陳情18号	駅東線北部道路の延長整備について	東中野区長 今井 正平 外16名	採 択
陳情19号	大野自動車整備協同組合の共同施設整備事業認可と助成金の交付について	大野自動車整備協同組合 理事長 石川 市郎	採 択
陳情20号	側溝の改修と水の取り入れについて	大和町一区々長 松田 巖	採 択
陳情21号	公共施設の利用に対する措置について	福井県理容環境衛生同業組合大野支部 支部長 富田紀男 外1名	採 択
陳情22号	防火設備整備事業に対する市補助金交付に関する陳情書	社会福祉法人大野福祉会 理事長 浅山 透 外2名	採 択
陳情23号	児童センター建設について	第5地区区長会城町2区 区長 松田元弥 外8名	採 択
陳情24号	新規学卒者を中心とした若年労働力の確保について	大野商工会議所 会頭 宇野治一 外1名	採 択
陳情25号	阪谷幼稚園園舎増築及び一部改良について	阪谷幼稚園PTA 会長 中尾繁一 外8名	採 択
陳情26号	義務教育費国庫負担制度の堅持を求める陳情書	福井県教職員組合大野支部執行委員長 亀谷 学	採 択
陳情1号	福井県立大野高等学校の移転について	中保区長 長谷川 久 外22名	継続審査
陳情8号	名称・形式を問わず、大型間接税の導入に反対する陳情書	大型間接税反対福井県連絡会代表者 大崎 栄太 外26名	継続審査
陳情10号	福井県立大野高等学校移転について	新庄区長 永田 正元 外24名	継続審査
陳情17号	大型間接税導入中止に関する陳情書	福井県労働組合評議会 議長 石田 等 外1名	継続審査

委員会報告 各委員報告から

●建設委員会

○二番線の改良について

二番線の鋸町から市役所間は旧態依然として時代にそぐわない幅員であり、市街地形成上からも、西部地域の開発・発展上からも問題があるうえ、リゾート開発等の面にも支障を来すので、土地の先行取得の方策を講ずるなど積極的な取り組みが必要であるとの意見が述べられた。

○市街地の整備について

現在、市街地整備策定委員会で21世紀の都市像の検討が進められているが、今後、市街地の整備や開発を実施する場合は軽々しく事業を行うのではなく、当市の史跡・旧跡の保存や活用を十分考慮するようにとの要望があった。

○水道事業会計について

今後さらに上水道利用の向上や加入促進等に全力を挙げ、赤字解消のために企業内努力をすべきであるとの意見があった。

●総務委員会

○大野高校の移転問題について

大高の移転に伴う用地選定等については、議会と十分協議をするよう要望していたが、今定例会の冒頭で市長は移転候補地に順序をつけて表明した。

これに対し委員会で強い不満が述べられ、審査を一時中断したが「順位はあくまで庁内の専門委員会の調査結果であり、今後は議会と十分協議したい」との理事者の考え方を了承した。

○4週6休制について

4週6休制導入については、1年余の試行から推察して支障はないと思われるが、市民へのサービスの低下を招いたり、職員の時間外勤務が多くなならないような対策をすべきであるとの要望があった。

●交通対策特別委員会

○越美線の全通問題について

昭和38年から越美北線と南線の全通を目指して陳情等を行ってきたが、国鉄の民営化などによって新線建設は非常に厳しい状況であるので、越美線全通促進同盟会が解散されることになった——との理事者からの報告があり了承した。

○赤字路線バスの地元負担について

本本線の地元負担は他の路線の約3倍になっているが、これは本本地区だけで負担しているからである。沿線地区にも何らかの負担を求めるか、市の補助を考えるべきであるとの意見が述べられた。

○国道157・158号線改修について

国道158号線改修については、路線の決まっていない美山地区の計画を早急に立て、できれば157号線を含めて国の直轄工事になるように陳情すべきであるとの意見が述べられ、今後も委員会を存続することになった。

●水行政対策特別委員会

○水資源対策試案について

将来の水需要の予測のもとに水資源対策の基本的指針であるこの試案について、数回にわたって理事者と議論を行った。これに対して自然環境の破壊への反省、水資源の浪費に対する感覚の甘さ、地下水涵養調査の不十分等の面から一部反対の意見もあったが、現在



大切にしたい水資源

の行政としての対策の一方であり、時代によって需要や対応は変化をするものであるとして、成案を了とした。

今後も存続して上下水道を含めた水行政対策について調査・研究することで意見の一致をみた。

●総合病院対策特別委員会

○総合病院問題について

3月24日当特別委員会が設置されてから、民間の2病院や県済生会病院の調査・訪問をはじめ、厚生省での研修などを実施した。

理事者は済生会病院誘致の意向を示し、議会・市医師会・市理事者の3者で小委員会を設けて検討を進めている。

名称は「済生会大野病院」とし診療科目は救命救急センターを中心として、当市に不足している科目をはじめ、内科・外科・小児科等を含めた10科目程度とし、今後は建設時期やベッド数等について済生会病院と話し合うことになっている。

当委員会としても小委員会の動向や理事者の対応をみながら、今後も存続して総合病院の早期実現のために取り組むことで意見の一致をみた。